

道徳科学習指導案

日 時 令和2年5月29日(金) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年B組35名
会 場 2B教室
授業者 大瀧 航

1 教材名 「ジコチュウ」【B(9) 相互理解, 寛容】

2 教材について

(1) 生徒観

今年度の道徳の最初の時間に、キャリアパスポートで立てた目標をもとに、道徳で学ぶ内容項目において、「どのような項目に興味があるか」「どの項目について学んでみたい

	人数
A 主として自分自身に関すること	106
B 主として人との関わりに関すること	117
C 主として集団や社会に関すること	118
D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること	76

か」というアンケートを行った。アンケートの結果【表1】を【表1 生徒回答(第1～3希望)】分析すると、【B 主として人との関わりに関すること】の視点に関することに興味を寄せていることが分かる。さらに内容項目について見ていくと、【(9) 相互理解, 寛容】に関心を示し、理由としては「コミュニケーションを取るために大切だから」や「相手の考えを受け入れることが苦手だから」、「相手を理解することで自分を上手に伝えたいから」、「自分勝手な自分がいるから」などが挙がった。これらのことから、生徒は理想の自分になるために、相手を尊重し、望ましい人間関係を構築することを願っている。

生徒は4月から新たな学級での生活をスタートし、様々な活動に取り組んでいる。新たなクラスメイトと授業や係活動に取り組んでいるが、自己開示をためらい、発言を躊躇することや班で協力して係の仕事に取り組むことに消極的な生徒も見られる。新しい人間関係の中に身を置くことによる不安を緩和するために、放課前の終会でクイズなどのレク活動を積み重ね、安心して発話できる環境を整えてきた。これを生かし、積極的に自分の経験を発言することを促し、他者の考えから視野を広げ、深い学びになるようにしていきたい。また、昨年からの総合的な学習の時間や特別活動の時間において思考ツールを用いて情報を整理する活動に取り組んできた。今までの経験を生かし、思考ツールを用いることで、他者の考えを積極的に受容し、自分の考えと結び付けることで、効果的に道徳的諸価値の理解を深めさせたい。

(2) 教材観

本教材は、『中学校学習指導要領道徳編』の【B 主として人との関わりに関すること】の、【(9) 相互理解, 寛容】「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」を中心に据えて学習を進める。

本教材は、家庭の事情で学級の仕事などが十分にできなくなった「佐々木」に対して、「ジコチュウ」と言ってしまった「僕」が、その事情を知り、相手を理解しようとしていなかった自分に気づき、考えを改めようとする読み物教材である。登場人物の「僕」は班長として班活動をリードする立場にあり、責任とプライドがある。一方、「佐々木」は母の代わりに弟や妹の世話をしなければならない役割を担い、放課後の時間をあてなければならない状況である。それぞれの立場や役割から生じる思いを理解し、どのようにすることがよりよい生活につながるか考えさせることで、【相互理解, 寛容】について理解させたい。

(3) 教科研究との関わり

研究の視点1 本校のカリキュラムに即した年間計画に沿った小単元型ユニット

※研究総論との関わり：(1) 教科等固有の見方・考え方を働かせる「真正の学び」の場の設定

道徳科では、研究総論で示している「本校で育成を目指す資質・能力」を生徒に育むために、カリキュラム・マネジメントの視点から、年間2回ユニットを組んで、一つのテーマを数時間に渡って考えさせていく。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列することに留意しながら、カリキュラムをデザインした。このようなユニットを通し、またそれ以外の一単位時間の授業において、道徳科で考える見方・考え方を働かせる場を効果的に設けていく。

本教材では、生徒自身の班活動の経験を想起させ、その時感じたことや考えたことを道徳科の話し合いに生かすことで、生徒の関心を高め、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育みたい。

研究の視点2 道徳的価値理解を基に考えを深める授業／学年に応じた思考ツールの活用

※研究総論との関わり：(2) 主体的・対話的で深い学び等による「学びの自覚化」

(3) 情報・情報技術の効果的な活用

導入や中心発問後の切り返す発問の吟味、一単位時間を通してグループなどによる対話で生じた考えを思考ツールを用いてメモをすることにより、生徒が多面的・多角的に考えたり自己を見つめたりする場を設定したい。このように、生徒が「見方・考え方」を働かせて考える過程で、自分自身の良さや課題に向き合い発信することで、人間の強さや弱さを共有することができる。さらに他者の考えを知ることによって新たな視点に気付かせ、それを踏まえてあるべき姿を探求させていくことが、「人間の強み」の発揮につながるものであると捉える。

本教材では、導入で提示する生徒のアンケート結果についての考えに授業を通して何度か触れることで、学びを自分事としてとらえさせたい。また、問題解決的な学習を進める上で提案される考えを、思考ツールを用いて整理することで、自分と他者の考えをつなげることで【相互理解、寛容】について多面的・多角的に理解し、その価値の理解をもとにいかにかに生きるかについて主体的に考えさせたい。

研究の視点3 一単位時間、ユニットにおける学びの自覚化を促す振り返り

※研究総論との関わり：(2) 主体的・対話的で深い学び等による学びの自覚化

道徳科における評価とは、生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。以上の理由から、一単位時間ごとの学習シートと、ユニットごとのOPPシートをファイリングし、そこから生徒の学びの様子を見取るとともに、評価のための資料として蓄積していくことで、生徒自身の学びの自覚化を図るものである。

本教材では、道徳アンケートの視点について、仲間と話したり自分で考えたりすることを通して、学びの深まりを実感させたい。その過程を学習シートに形として残すことで、本時の学びをよりよく生きるためにどのように生かしていきたいか考える実践意欲につなげたい。

3 本時について

(1) 育成を目指す資質・能力

- ①【相互理解、寛容】がよりよく生きるために大切であることを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力。
- ②自己を見つめ、他者と協働し、【相互理解、寛容】について、教材を通して広い視野から多面的・多角的に考える力。
- ③教材を通して考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する力。

(2) 指導目標

- ① 登場人物の言動について共感的かつ批判的に捉えることで、「考えや立場の違いを尊重し合うために大切なこと」を理解し、よりよい生き方について考える。
- ② 登場人物の言動を支える心情について、学級で協力して考えることで、広い視野から多面的・多角的な思考をする。
- ③ 自己のこれまでの生き方、これからの生き方について考え、人としてよりよく生きようと探究する。

(3) 評価の視点

	① 道徳的諸価値について考えること	② 自己を見つめること	③ 人間としての生き方についての考えを深めること	※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
目指す生徒の姿	自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしている。	価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。	学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。	道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。

(4) 指導計画及び評価計画

時	「資料」【内容項目】 ○本時のテーマ ・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
事前	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの記入後に、なりたい自分になるために学習したい内容項目について書く。 ◆ 内容項目をイメージしやすくするために、実際に議論を行い、どの内容項目に関連したものか確認することで、内容項目の理解を深める。 	① 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。 ② 価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。
本時	「ジコチュウ」【B (19) 相互理解, 寛容】 ○「考えや立場の違いを尊重し合うために大切なことは何か」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「僕」や「佐々木」の行動や心情を考えることを通して、価値理解をする。 ・ 自分が「僕」だったらどのような行動をとるか学級で広い視野から多面的・多角的に考える。 ・ 価値理解を基に、これからの自分自身の行動について考える。 ◆ 「僕」の行動について考える際に、自分の考えを支えるものの可視化や他者の考えを整理させるために、思考ツールを用いる。 ◆ 望ましい行動が分かっても実行できないことがないか考えさせる。また、実行できなかった場合どうなるのかを考え、これからの自分自身の行動について考えるヒントとする。 	③ 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。 ※ 道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動の時間に、班活動を行う上での班員との関係を確認する。 ◆ 教科横断的な視点で振り返らせるために、事前に考えた道徳科での振り返りシートを想起させて記述させる。 	

(5) 授業の構想

本時の導入では、生徒の「ジコチュウ」に関わる経験を問う。その後、どのような時に使われる言葉か確認し、本時に学習する内容項目を認識させる。項目に応じた、前期の初めに行ったアンケートでの記述されていた学習動機について確認し、思考する視点を与える。

展開では、一人一人に道徳的価値について考えさせるために、2人の登場人物の思いや行動について迫っていく。「ジコチュウ」の言葉に詰まった思いについて、「僕」の立場を踏まえながら交流したい。一方、「佐々木」はどんな気持ちで「なんにもわかっていないくせに！」と話したか、「佐々木」の立場を考えながら交流したい。以上の交流を通して「互いの立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなものの見方や考え方があること」についての理解を深めさせるとともに、生徒自身の班活動についても想起させることで、地に足付けた議論としたい。**※研究の視点1**

その価値理解を基に、もし「僕」だったら廊下まで追いかけた場面でどのように行動したか問題解決的に議論する。実際に自分が「僕」の立場にいたらという設定で行うことで、終末の自己を見つめながらこれからの生活に生かすことを視野に入れながら、考えを交流させたい。交流している時のメモには、思考ツールを用いることで自分の考えを支えるものの可視化や他者の考えを整理させ、振り返りで学びの変容や自分の学習の過程をモニタリングしやすい状況を作り出したい。**※研究の視点2**

終末では、本時の最初に提示したアンケートの学習動機について確認することで、振り返りの視点を与え、自己より良い生き方に資する時間としたい。4人グループで学んだことをそれぞれが言葉にすることで考えを整理するとともに、他者の学びを吸収する時間を設ける。その後、振り返りを書くことで今後の生活において、どのように今回の学びを生かしていきたいか文章化させることで、よりよく生きていこうとする道徳的実践へつなげていかせたい。**※研究の視点3**

(6) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応	時間 (分)	指導上の留意点および評価の視点 ・指導上の留意点 ○※評価の視点
導入	1 ジコチュウと言われたことはあるか？ 2 学年アンケートを確認する。	5	・内容項目について学習したい理由を紹介し、学びを深める動機付けを行う。
展開	2 資料を読んで、考える。 僕はどんな思いで「ジコチュウ」と言ったのだろうか？ ・悔しいから ・日頃から感じていたから ・班長としての責任から なぜ佐々木は「なんにもわかってないくせに」と言わせたのだろうか？ ・悔しいけど言いたくない ・分かってくれないだろう ・班長としてもっと私を気遣ってよ 3 「僕」の行動について考え、交流する。 もしあなたが「僕」なら、どのように行動するだろうか？ ・「ジコチュウ」という。…自分なら、話してしまうと思う。班員のことを考えると伝えなければならない ・なぜか理由を聞く。…自分なら、優しく聞くとと思う。佐々木の行動の裏にある思いを聞いて、解決策を考える。 ・そのまま見送る。…自分なら、やっぱり聞けない。佐々木のことを考えると触れて欲しくないと思う。	30	① 道徳的諸価値について考えること ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること ・思考ツールを用いて、交流のメモをとる。 ② 自己を見つめること ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
終末	4 本時を振り返る。 本時で学んだことについて4人グループで交流する。 学年アンケートの記述を確認し、振り返りを書く。 ・今後学校生活を送る上で、相手が悪いと感じてしまっても、相手だけではなく、自分にも原因がないか考え行動することが大事だと思った。 ・相手の行動を支える思いを知り、自分の考えと折り合いをつけることが今後大切だと感じた。 ・相手がどのようなことを感じて言葉にしているかを考えながら生活していきたい。また自分の考えを相手に伝える力を高めて、コミュニケーションを上手に取りたい。 5 教師の説話を聞く。	15	② 自己を見つめること ③ 人間としての生き方についての考えを深めること ・授業の前と後でどのように考えが深化・変容したか記述する。